
自然消滅

優衣華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

自然消滅

【Nコード】

N8490B

【作者名】

優衣華

【あらすじ】

先輩・後輩の切ない恋の話です。

第一話・出会い

どうして...？

どうしてあなたは私の前からいなくなったの？

いつから私を嫌いになったの？

あんなにラブラブだったのに...

あんなに大好きだよって何回も言ってくれたのに...

今でもあなたは、私の事を想って心が痛むことがある？

私は毎日…

気が付いたらあなたが私の隣になくなっちゃった時から毎日、

あなたの事を想って、

たまに泣いて、

それでも頑張って笑顔でいるよ

あなたは今、どこにいますか？

何色の空を見て

誰とどんな話を話し

どんな事で笑い

どこで何をしていますか？

あなたは今

誰を愛していますか。

あたしは翔の先輩で、翔は1コ下のバスケット部の後輩だった。

去年の春、話しもしたことない翔にメアド聞かれて、メールで仲良くなつて、一緒に遊園地に行く事になった。

2006年・春…

優衣華

「あー！まだヒマ！彼氏欲しいわーーーーー（＜D＞）」

美奈

「言えるー！でもさあータメNGなんだよなあー。三年だから年上いないじゃん！？まだ困るわー」

ユイカ

「だよねだよね！アタシもタメNG！！もう年下行っちゃっ？？」

ミナ

「いいじゃん年下！可愛がってあげる程度で？？」

ユイカ

「よし！合コン組んでもらおうよ！」

ミナ

「おkゝでもさあ、あたし年下で仲良い子いないんだよね」

ユイカ

「じゃあアタシがアポ取ったところか？？ユキちゃんに聞いてもらっよゝ。」

ミナ

「まぢっ？じゃあよろしくー。サンキュッッ」

—その日の放課後—

ユイカ

「ねえユキちゃん！！2年の子と合コンしたいんだけど、アポ取ってもらってもいい？」

ユキ

「合コンですか？」

わかりましたー。

誰とかがいいですか？？」

ユイカ

「小池君！！と仲間達がいい！」

ユキ

「わかりましたっ

じゃあ聞いておきますっ」

ユイカ

「ありがとうー」

ー次の日ー

ユキ

「先輩！小池が日程とか決めたいからアドレス教えてほしいみたいです！」

ユイカ

「まぢっ！？じゃあこれ渡しといて」

ユキ

「はいっ、ありがとうございます！」

ユキちゃんにメアド渡した日、小池君からメールが来た。

「新着Eメール一件」

見たことないアドレスから。

誰だろ？

受信《こんにちはっ！2年の小池翔です！よろしくお願いしますっ
同じauですね♪
これからいっぱいメールしましょうね》

小池君、カワイイじゃん（笑）

送信《よろしくねー。つか、合コンとかわけわかんないこと言っちゃってごめんね〜（笑）》

それからあたしと翔は仲良くなっていた。

受信《てか、俺先輩のこと何て呼べばいいですか？？》

送信《フツーにユイカとかでいいよ〜♪てか、タメ語で話そーよ♪》

受信《わかった〜→→じゃあ、ユイカ先輩って呼ぶね♪》

送信^{はあい}

受信《てか俺、先輩と二人でどこか行きたいなあって思ってるんだけど、どうですか？》

送信《えっーと……考えとくねっ》

第二話・初デート

それからあたしは、一日中小池君とメールするようになった。

受信《ユイカ先輩っ！2日でメールもう400件越してるよー！すごくない??》

なんか、気分乗らなかったから、メール返さなかった…

そしたら夜に、

受信《先輩？

なんで今日わあんまりメールしてくれないのー??》

カワイイーーーー!!!

送信《ごめんねえ←←ケータイなくなってた!!》

適当なウソついてごまかした。

受信《なんだあゝゝゝ、ユイカ先輩が俺に飽きちゃったのかと思った(泣)》

送信《違うよゝ!そんなワケないじゃんゝ》

受信《よかったゝ!

てか、遊び約束考えといてくれましたかあ??》

送信《うん!デートしょつかゝ》

受信《やったー!!!!マジ嬉しい!ユイカ先輩ありがとゝ》

送信《そんなに喜んでくれるのー?(笑)
どこ行こっか??》

受信《どこでもイイヨ!ユイカ先輩の好きなところー!》

なんか、最初わ全然期待してなかったけど、けっこうカワイイじゃん♪

送信《あたし遊園地行きたーい！》

受信《遊園地？いいねー
先輩と行ったら楽しそう♪》

そしてあたし達は、後樂園に行くことにした。

すごく楽しみだった。

―2006年5月3日―

受信《先輩っ？明日だねっ！超楽しみ♪》

送信《あたしも楽しみー！初デートだねっ♪》

楽しみだったけど、ちょっと不安だった。

話もしたことない後輩と、二人で遊園地なんか行って楽しめるのかな？

気まづくならないかな？？

—— 5月4日 ——

大丈夫かなあ？

まあ、どうせ後輩だし。

とか思いながらも、メイクばっちり、服なんて朝起きて迷いまくり

何やってんだ…あたし ← ←

待ち合わせは東京駅。

電車の中は、上手く会話できなかった ← ←

後樂園着いたら気分上がって、最初にジェットコースター乗った。

待ち時間は70分…

長いはずの時間も、翔といると短く感じた。

次はお化け屋敷

メッチャ怖くて、ずっと翔に捕まってた

チョット幸せだった。

お昼ご飯食べて、またいろいろ乗って……

時間がどんどん過ぎていった。

・タワーハッカー・

タワーハッカーは今まで勇気なくて乗れなかった…

だってめちゃ怖そうなんだもん！

いきなり落ちるなんてあり得ない！！！！

でも翔が乗りたいって言ったから頑張ってみた！

翔は、一番上になった時、スッゴい怖くて泣きそうだったあたしの手を握ってくれた。

タワーハッカーよりも、つないでる手の方が緊張したよ。

その後、翔が

「寒いから手つなごう?」

って言うてくれて、二人が離れるまでずっと手つないでた。

1日は終わって、さよならの時間が来た時

駅であたし達は手をふってバイバイした。

帰りの電車の中で、色んなことを思い出した。

手つなごうって言うてくれたこと

頭撫でてくれたこと

たくさんたくさんあって

思い出しきれないくらいたくさんの幸せな時間を過ごした

また会いたいな。

受信《先輩っ！今日はありがとうっ！スッゴい楽しかった！！！！》

送信《あたしも楽しかったっ》

受信《また今度遊ぼうねっ！てか、学校で放課後とか会いたいかも
っ》

送信《そうだねえ》。時間があつたら学校でも会おうねっ《

その夜もいっぱいメールした。

ねえ翔？

翔は覚えてる？

あの日のこと

ユイカのこと、忘れないでね

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8490b/>

自然消滅

2010年10月28日03時52分発行